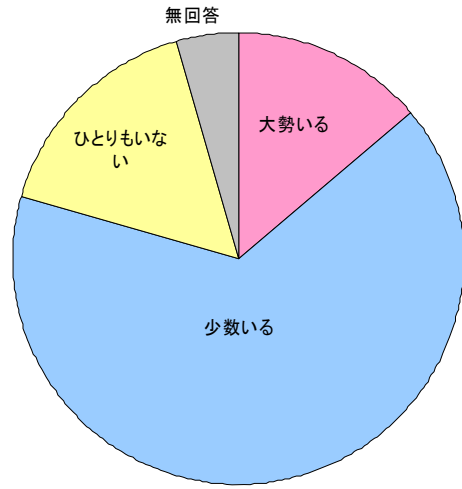


問 6. 【地域との絆①】あなたは、お住まいの地域で、「いざというとき助け合える人や、信頼して相談できる人」がいますか？（ひとつだけ選択）

新潟市みのアンケート結果

いざというときに助け合える人や信頼して相談できる人の有無を調査した結果、約80%が少数以上いると回答している一方、約16%は「ひとりもいない」と回答している。

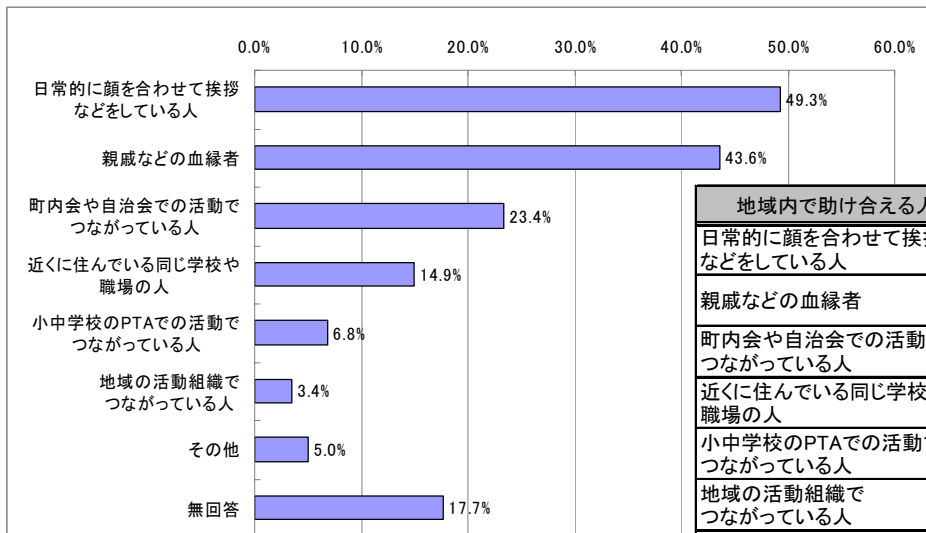


地域内で助け合える人	回答数	回答率
大勢いる	479	13.9%
少数いる	2,261	65.5%
ひとりもいない	560	16.2%
無回答	151	4.4%
合計	3,451	100.0%

問 6-1. 【地域との絆②】「いざというとき助け合える人」は、どのようなつながりの人ですか？（あてはまるものを全て選択）

新潟市みのアンケート結果

「日常的に顔を合わせて挨拶などをしている人」というつながりが最も多く、約半数が選択している。次いで、「血縁者」（43.6%）や「町内会等」（23.4%）となっている。



地域内で助け合える人	回答数	回答率
日常的に顔を合わせて挨拶などしている人	1,705	49.3%
親戚などの血縁者	1,506	43.6%
町内会や自治会での活動でつながっている人	808	23.4%
近くに住んでいる同じ学校や職場の人	515	14.9%
小中学校のPTAでの活動でつながっている人	235	6.8%
地域の活動組織でつながっている人	119	3.4%
その他	173	5.0%
無回答	610	17.7%

<アンケート結果に対する考察>

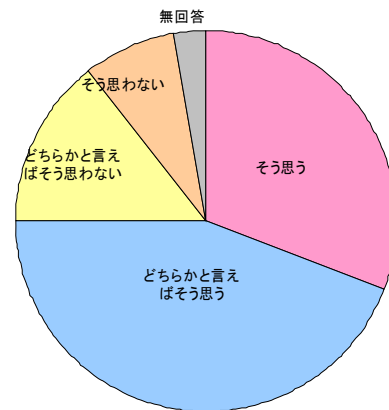
- ・「いざというときに助け合える人がひとりもいない」とする約16%の市民について、今後、何らかの対応が重要である。助け合える人は、血縁者を除けば「日常的に顔を合わせる人」や「町内会や自治会などでつながっている人」が多く、平常時のつながりをきっかけとした施策が有効であることが示唆されている。

問 7-1. 【愛郷心】自分は、住んでいる地域に誇りや愛着を感じていますか？

新潟市のみアンケート結果

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」とする回答が、合計で 75%となっており、地域に誇りや愛着を感じている。

地域に誇りを感じる	回答数	回答率
そう思う	1,064	30.8%
どちらかと言えばそう思う	1,525	44.2%
どちらかと言えばそう思わない	501	14.5%
そう思わない	263	7.6%
無回答	98	2.8%
合計	3,451	100.0%

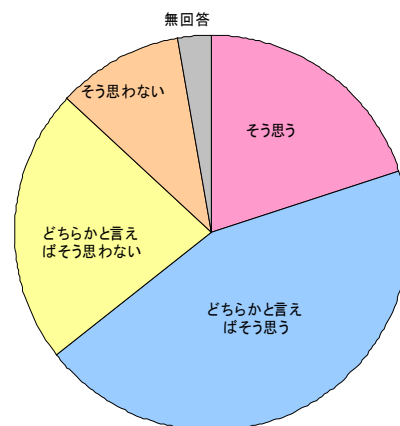


問 7-2. 【地域への関心】この地域に住んでいる人は、お互い何かと助け合って生活していると感じますか？（ひとつだけ選択）

新潟市のみアンケート結果

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」とする回答が 64.4%となっており、「助け合って生活している」地域と感じている。

地域内で助け合っている	回答数	回答率
そう思う	691	20.0%
どちらかと言えばそう思う	1,533	44.4%
どちらかと言えばそう思わない	772	22.4%
そう思わない	361	10.5%
無回答	94	2.7%
合計	3,451	100.0%



<アンケート結果に対する考察>

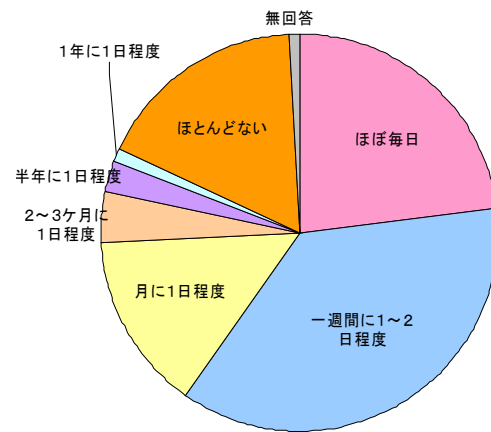
- 市民の 75%が「地域に誇りや愛着」を感じ、約 64%が「地域でお互い助け合って生活している」と感じており、それらの意識を地域の防災活動につなげ、災害時の犠牲者ゼロを目指すための工夫が課題となる。

問 8. 【地域との絆③】あなたは、お住まいの地域において、家族以外の人との会話やお付き合いを、どの程度行っていますか？（ひとつだけ選択）

新潟市のみアンケート結果

「1週間に1～2日」とする回答が最も多く（36.8%）次いで、「ほぼ毎日」との回答が多く（22.9%）、過半数が週に1日程度以上の頻度で地域の人とのつながりをもっている。

地域内の付き合い	回答数	回答率
ほぼ毎日	792	22.9%
一週間に1～2日程度	1,271	36.8%
月に1日程度	492	14.3%
2～3ヶ月に1日程度	149	4.3%
半年に1日程度	86	2.5%
1年に1日程度	38	1.1%
ほとんどない	593	17.2%
無回答	30	0.9%
合計	3,451	100.0%



<アンケート結果に対する考察>

- ・「ほぼ毎日」と「一週間に1～2日程度」の合計の回答が過半数を占めており、これらの市民を軸として、いざというときに地域でお互いに助け合えるための機運を高めていくための工夫が重要となる。
- ・「ほとんどない（17.2%）」を含む、地域とつながりの少ない市民に対して、日常的な付き合いを増加させていくことが、住民力の強化につながることを期待されるため、平常時の地域のつながりを強化していくための取組みが課題となる。